ひかり結ぶまち
かりや景観れぽーと

テーマ 景観の見方

VOL.17

発行日:平成21年3月1日
発　行:刈谷市都市計画課
TEL:(0566)62-1022

今回の景観れぽーとは、平成20年11月に実施したかりや景観づくり講座※についてご紹介します。

今年は、昨年度に引き続き景観の第一人者である堀先生を講師にお招きして、「お伊勢さん」と呼ばれ、古くから日本人の心のふるさととして親しまれている伊勢市で「景観まちあるきin伊勢」を開催しました。

良い景観の見極め方や景観づくりのポイントについて堀先生に教わりながら、一緒に景観スポットを歩いてまわり、具体的に景観づくりの事例を学びました。景観づくりに精力的に取り組んでいるまちを見て、刈谷の景観をもっともっと良くしていくアイディアをたくさん見つけることができたようです。

また、今回の景観れぽーとの表紙の写真では、「美しい愛知づくり景観資源」に指定された市内の景観を掲載しています。裏表紙では、それぞれの場所の詳細を紹介しています。

身近なところにも、美しい景観はまだまだたくさんあるはずです。みなさんも、いつも目にするまちなみへの見方をちょっと変えて、美しい刈谷の景観づくりについて考えてみませんか?

※かりや景観づくり講座:市民のみなさんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による都市景観づくり活動や、美しい都市景観の創出につながる機会としていただくことを目的に、平成15年度から毎年開催しています。

堀 繁 先生（東京大学アジア生物資源環境研究センター教授）

専門

景観デザイン
景観工学
計画設計思想史
地域計画

主な経歴

環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。

国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、建設省「道路環境計画」、農水省「日本の美しい村景観コンテスト」、水産庁「美しい漁村づくり」、環境庁「日本の音風景100 選」、国土庁「地方振興方策のあり方に関する検討」、日本道路公団「高速道路景観整備実践マニュアル」など、国、公団、地方公共団体等の各委員会座長・委員等を歴任。

「美しい愛知づくり景観資源」に刈谷市の景観が指定されました!

600選

愛知県では、地域にある良好な景観を県民共有の財産として認識し、将来に向けて守り育てていくことを目的に、「美しい愛知づくり景観資源600選」を指定しました。

刈谷市においては、「亀城公園」を始め3箇所が指定され、愛知県知事より指定証を授与されました。刈谷市内の指定された景観資源は次のとおりです。

1 葦原で自然がいっぱい（司町他）

2 亀城公園（城町）

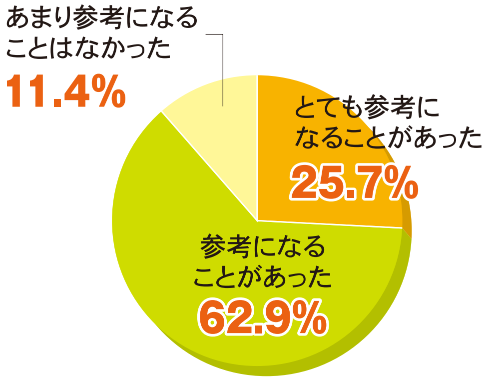
3 小堤西池のカキツバタ群落と東側丘陵地（井ヶ谷町小堤西他）

かりや景観づくり講座への

参加者の声

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。
ここでその結果の一部をご紹介します。

Q 今後の景観づくりの参考になることはありましたか?



Q どんなことが参考になりましたか?

- まず自分の家庭から招客、挨拶に当てはまることを始めていきたいと思う。人を引きつけるまちなみはただ偶然ではなく、そこに住む人達が大変な努力をしているということが分かった。
- 外から見た我が家の景観、ガーデニングなど人に不快感をあたえないように1人1人の景観づくりが市全体の景観づくりになると思います。
- 自分の家の庭、駐車場の花壇の手入れを定期的にしていきたいと思った。
- 商売をやっているので、先生の話を聞いて入口の風景を変えてみたくなりました。
- 公費を使ってのまちづくりだけではなく商店街とかそこに住んでいる人がやるべきこと、やれることが随分多い。
- 景観をすばらしいものにするために電柱など取り除きすっきりとした街並みにしたらすばらしいと思う。
- 店とか商店を見る時の見方に大変参考になった。
- 何となく見ていた街の景観が興味を持って見られるようになりそうです。「もっと学んでみたい」と思いました。

景観まちあるき in 伊勢

東京大学教授の堀繁先生を講師に迎えて、
景観づくりの基礎のお話を伺いながら一緒にまちを歩いてまわり、具体的な景観づくりについて学びました。

講義その1 「景観を理解しよう」

車窓からの眺めを題材にしつつ、景観の見方や基礎について教わりました。

Q「景観」ってなに?

景観とは、「①(目で)見ること」、そして「②(頭で)見たものを評価する」こと。

注意 見えている「もの」そのものが景観ではありません。

Q「①見ること」とは?

私たちは二つのもの、「見たいもの」と「見やすいもの」を探し出し、それらを重視して見ています。

見たいもの

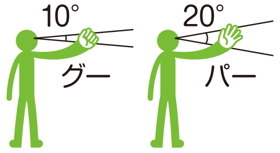
○ひとつめは、自分が今いるところがどんなところか「理解の手がかりを与えてくれるもの」。楽しいところか、安全なところか、まちの中なのか、田んぼの中なのか、など。

○ふたつめは、自分が「興味を持っているもの」。この"興味"は人によって違います。例えば、バードウォッチングが趣味な人とハイキングに行ったら、その人にはたくさんの種類の鳥が見えたという経験はありませんか?

見やすいもの

○ひとつめは、「程よい大きさ」で見えるもの。具体的には、手を伸ばして「グー」から「パー」の間の大きさ(見込角が10°〜20°の間)で見えるもの。

○ふたつめは、「他のものに邪魔されていない」ということ。見ようとする方向に電柱が立ちふさがって邪魔していることは多いですよね。



➔ 見たいもの、関心のあるものが見やすくて、的確に状況が理解できると目は満足するのです!

Q「②見たものを頭で評価する」とは?

目から入った情報が、瞬時に脳に送られて、評価が行われます。見るだけでは単なる「情報収集」です。
そして、その評価の一番の基準は、「私のことを大事にしてくれるかどうか、楽しいか」ということです。

Q「私のことを大事にしてくれるかどうか」のチェックポイントは?

ポイントは二つ、「道と沿道の建物」にあります。

○道は、人間と車のどちらを大事にしていますか?人間は楽しく道を歩けますか?

○沿道の建物は、人間を迎え、もてなすメッセージを発していますか?お店の中がよく見えたり、目につくところに照明があったり、暖かみを感じられる木のドアだったりすると、雰囲気がいいと感じられます。

…入口の舗装は丁寧ですか?コンクリートの打ち放しより、小さな玉石のはめこまれた舗装の方が印象深いですね。

…建物の前(建物と道の間の空間で"中間領域"といいます)には何が置かれていますか?

次の「三種の神器」がバランスよく揃っていると、私たちは楽しく、居心地良く感じられます。

三種の神器

- ▶ **あいさつの装置** 植物や花の鉢など、道行く人に挨拶のメッセージを出しています。
- ▶ **迎客の装置** ベンチ、テーブル、椅子、暖簾、雰囲気の良い照明、灯籠、日よけの傘など、あなたを迎える準備が出来ているというメッセージを伝えるものです。
- ▶ **集客の装置** メニュー、看板、商品、商品サンプルなど、何を売っているか知らせるものです。

景観まちあるき

伊勢市に到着後、堀先生とアシスタントの堀温子さんと一緒にまち(おはらい町・おかげ横丁周辺)を歩いてまわって、良い景観づくりの事例を学びました。

習ったばかりの「グーからパー」を使って、見たいものが見やすいかどうかを確認してみました!

実際のお店を見ながら、植物やのれん、照明、ベンチ等々、おもてなしの心が表現されている様子を学びました。「見たものが私のことを大事にしてくれている」と感じられる景観が良い景観です。

講義その2 「景観をつくろう」

まちあるきの後、伊勢市内の会場にてスライドを見ながら、まちあるきのおさらいをするとともに、景観についての理解をさらに深めました。

よい景観1 見たいものが見やすいこと
(見たくないものが見えにくいこと)

写真①

写真②

写真①のように、見たいもの(城)が見やすい大きさに見えていても、他のもの(電柱やビル)よりも相対的に小さく、電線や樹木に邪魔されているために、よい景観だとは感じられません。写真②は、見たいもの(教会)が見やすい大きさ(グーからパー)で家並みよりも大きく見え、また、他のものに邪魔されずに程よい大きさで見えているのでよい景観だと感じられるのです。

よい景観2 見たものが、私のことを大事にしてくれていること

写真③

写真④

写真③と④を比べて、どちらのまちを歩いてみたいと思いますか?写真③は車道が広く、「人間よりも車を大事にするよ」と感じられます。沿道の建物も殺風景です。写真④は、道の特等席である真ん中を人間が使えるためにとても歩きやすく、沿道の建物も丁寧につくられていることから、「私のことを大事にしてくれている」と感じて満足するのです。

↑ 車がいない時は歩道に見える道路

↑ 非常に低い位置にあり、見やすい袖看板

↑ 道の真ん中に置かれた縁台

おはらい町、おかげ横町には、目を満足させ、頭を満足させるための仕掛けがたくさんありました。

おはらい町

内宮宇治橋前から五十鈴川に沿って続く約800mの参道が「おはらい町」で、内宮の鳥居前町として発達してきました。
伊勢特有の切妻・入母屋・妻入り様式の土産物店や銘菓の老舗、旅館が軒を連ね、神宮道場や祭主職舎などの歴史的建造物もあります。
平成元年『伊勢市まちなみ保全条例』が制定され、店頭の修景、電柱の撤去、石畳の道に改修するなどまちなみの保全整備事業が進んでいます。

おかげ横丁

伊勢神宮内宮の門前町「おはらい町」の中程に、伊勢路の代表的な建築物が移築・再現されています。
約2700坪の敷地内には、この地方の魅力が凝縮されており、三重の老舗の味、名産、歴史、風習、人情までを一度に体感することができます。
江戸末期から明治初期の風情がテーマの建築物の特徴は、伊勢人が"神様のお住まいと同じ平入りでは恐れ多い"と妻の部分に玄関を設けた「妻入り」と、雨風の強い伊勢ならではの外壁の仕上げ「きざみ囲い」などが主です。